

2024年度 SSH成果発表会

事象の本質を追究し実践を支える 豊かな思考力を育む

— 「課題研究STEAM」を支え 教科の学びをつなぐ「協同的探究学習」 —

主催 名古屋大学教育学部附属中・高等学校

開催日程：2025年2月7日（金）9：15～16：20

（8：45から受付を行います。）

全体会	SSH概要について、協同的探究学習について 藤村宣之先生（東京大学）の講演Ⅰ（40分）	9：15～ 9：45 9：50～10：30
第1部	公開授業（協同的探究学習）・授業検討会	10：40～12：35
	昼食	12：35～13：40
	SSHプロジェクトポスター発表会 データサイエンス作品展示	13：00～13：30
第2部	公開授業（協同的探究学習） STEAM・授業検討会	13：40～15：30
全体会	藤村宣之先生（東京大学）の講演Ⅱ（40分）	15：40～16：20

会場：名古屋大学教育学部附属中・高等学校（名古屋大学東山キャンパス西地区）

形態：対面

対象者：小学校・中学校・高等学校・大学の教員（非常勤講師を含む）、教育委員会関係者、
教員志望・研究者志望の大学生および大学院生

本校の保護者の皆様のご参加はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

会費：無料

申し込み方法：2025年2月3日（月）までに、本校ホームページの申し込みフォーム

（<https://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp>）、または、下のQRコードを読み取り、お申し込みください。



2024年度 SSH第4期1年次 文理融合基礎枠

「サイエンス・エージェンシー育成のためのカリキュラム開発と実践」

目標：

自分で考案した事象を絶えず振り返りながら他者との共創を通し実現に向けて探究し続ける力を育成

STEAMとは

「Science（科学）」、「Technology（技術）」、「Engineering（工学）」、「Art（芸術）」、「Mathematics（数学）」の頭文字を取った言葉で、文系・理系の枠を超えた科学的思考力や創造力を育成することを目的とした課題研究の教科です。本校では、高校2年生から高校3年生の2年間を通じて、生徒それぞれの興味に基づく領域から個人テーマに取り組みます。

協同的探究学習とは

非定型問題に対する探究と他者との協同（共に学ぶこと）を通じて、生徒がそれぞれの考えやその関係性を分析し、本質を追究して豊かな思考（思考の広がりと深まり）を生み出す授業です。また、他者と話し合うことで、生徒が主体的に授業に関わり、お互いの考えを聞くことで仲間を認め合うことのできる授業です。

日程：

全体会 9：15～10：25

- SSH概要について、協同的探究学習について 9：15～9：45
- 東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之先生 講演Ⅰ
「事象の本質を追究する「わかる学力」と「ウェルビーイング」の育成
ー豊かな学びを創造する協同的探究学習ー」 9：50～10：30

第1部 10：40～12：35

- 公開授業（協同的探究学習） 10：40～11：30

教科・科目		学年
数学科		中学1年生
英語科		中学1年生 中学2年生
保健体育科		中学2年生
社会科		中学3年生
理科：物理基礎		高校1年生
本校設定教科・科目	データサイエンス	高校1年生
総合的な探究の時間	アカデミックライティング	高校1年生

※英語科の公開授業は、中学1年生と中学2年生の2会場、授業検討会は1会場で行います。

データサイエンスについて

取り扱うデータに対して適切な統計分析を選択し、その結果を客観的に解釈し、説明することを身につけます。自分たちが行った実験や実測データの分析に基づき、因果関係を明確にし、根拠を示す考察力を育成することを目指します。

アカデミックライティングについて

高校2・3年次のSTEAMに取り組むための基礎を身につけた上で、個々の研究テーマを設定します。その際には、文献調査を行い、仮説を立て、研究計画を策定していきます。

2 授業検討会 11:45~12:35

昼食 12:35~13:40

SSHプロジェクトポスター発表会、データサイエンス作品展示 13:00~13:30

第2部 13:40~15:30

1 公開授業（協同的探究学習） STEAM 13:40~14:30
高校2年生 研究報告・検討会

「STEAM」は、高校2年生と3年生の合計240人を16人の教員が担当しています。公開授業では、高校2年生が2年間の研究の中間地点で、異なる領域の生徒に小グループで研究成果を報告し、検討を行います。

2 授業検討会 14:50~15:30

全体会 15:40~16:20

東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之先生 講演 II
「本日の公開授業にみられる学びの深まり」

全体会（閉会）

講師の紹介

東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之先生

<講演概要>

国際比較調査などの結果を分析すると、日本の児童・生徒の「できる学力」（解き方などが一つに定まる定型的な課題を解決する知識・技能）の水準は高いが、「わかる学力」（多様な考えが可能な非定型的な課題に対する思考の構成・表現や深い理解）の水準は相対的に低いことが見えてくる。PISA2022年調査などでも、日本の生徒には、多様な解法や説明が可能な非定型問題に対する判断の理由の説明に課題があること、実生活に関わる問題を各教科の学習内容と関連づけて考えたり解決したりすることに対する自己効力感が低いことなどが示されており、今後の社会生活に活かす「わかる学力」の向上が国際的にみても急務となっている。これからの時代に向けて国際的にも重視されている「わかる学力」を育むには、子どもたちの思考の多様性を引き出し、子どもたち自身が相互に関連づけて思考の精緻化・再構造化を行っていくことができる授業を作っていくことが必要である。そのような授業では非定型の問題に対して一人ひとりの考えが尊重され認められることを通じて子どもたちのウェルビーイング（幸福度）が高まっていくと考えられる。そのような理念のもとに小・中・高の先生方と各教科等の授業を通じて開発と実践を進めてきている「協同的探究学習」についてその意義や心理学的背景を含めて実証的研究をもとに解説する（講演 I）。さらに、本日の公開授業を通じてどのように生徒たちの学びが深まり、「わかる学力」や学びに向かう力が高まりをみせているかについて考察する（講演 II）。

<プロフィール>

京都大学大学院教育学研究科において博士（教育学）を取得。名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授などを経て現職。専門は、教育心理学、発達心理学。カーネギーメロン大学（アメリカ合衆国）客員研究員、日本学術会議連携会員などを務めてきている。

<著 書>

- ・『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために—』
（藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著、ミネルヴァ書房、2018年）
- ・『数学的・科学的リテラシーの心理学—子どもの学力はどう高まるか—』（単著、有斐閣、2012年）
- ・『協同と探究で「学び」が変わる—個別的・ドリルの学習だけでは育たない力—』
（分担執筆、名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著、学事出版、2013年）
- ・『発達心理学—周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか— [第2版]』
（編著、ミネルヴァ書房、2019年）
- ・『新しい時代の教育方法 [改訂版]』（共著、有斐閣、2019年） 他多数